日本経済新聞 記事利用について

東大阪の町工場、現代アートで目覚め　職人に創作意欲

2023/12/27 19:28 | 日本経済新聞　電子版

蘭鳳さんとアート作品「道」（東大阪市の共和鋼業）

物づくりの町、大阪府東大阪市で町工場と現代アートの連携プロジェクトが進行中だ。アーティストとの交流を通じて、職人に独創的な製品を生み出そうという意欲を持ってもらうのが狙い。右肩上がりの時代が終わった今、元請けの注文通りに安くつくるだけでは行き詰まるという危機感が背景にある。

まず、照明器具メーカーの盛光SCM（東大阪市）と、段ボールメーカーのマツダ紙工業（同）、金網メーカーの共和鋼業（大阪市）の3社で2023年7～8月に始まった。それぞれの工場に若手アーティストが通い、約半年かけて工場にちなんだ作品を制作する試みだ。

アーティストが町工場内で創作した		
企業	アーティスト	作品
盛光ＳＣＭ	松岡裕喜	「Borderless（ボーダーレス）」
マツダ紙工業	原田とおる	「イルカナ」
共和鋼業	蘭鳳	「道」

共和鋼業では、書道家の蘭鳳（らんほう）さんが金網を用いて「道」という文字を高さ2メートル近い立体に表現した。筆で文字を書く時も平面でありながら奥行きを意識しており、同じ感覚という。もっとも、そばで制作過程を見ていた同社の社員には驚きだったようだ。

「（金網のところどころの色を変えて文字を浮かび上がらせる）グラフィックフェンスはうちでもやっていたが、まさか金網そのものを曲げて文字にしてしまうとは」と、ある社員は目を丸くする。しかも作品は力を加えると、自在に形を変える。金網の伸縮性をうまく作品に生かした。

同社は土木用の金網を主に生産しているが、取引先から求められるのは安さばかり。しかも公共工事の減少で需要は右肩下がりで、それを補おうと店舗やオフィスの内装材、家具などを独自に開発している。「金網とはこういうものだという社員の固定観念を変えたい」と森永耕治社長は期待する。

原田さんの「イルカナ」（東大阪市のマツダ紙工業）

マツダ紙工業では、現代アーティストの原田とおるさんが段ボールを模型のパーツのように組み合わせて「イルカナ」という作品をつくった。見る角度によってイルカにも人間にも見えて、整然とした工場のなかに置くと、そこだけ異質な空間に感じられる。

原田さんは金属の部材でお面などをつくることが多く、段ボールは初めて。扱いやすく何でもつくれると感じたという。「梱包にとどまらない可能性をもっと知ってほしい」と話す。同社は原田さんの助言をもとに、ある独自製品を24年初めに発売する予定だ。

盛光SCMの工場内で制作中の松岡さん（東大阪市）

盛光SCMは現代アーティストの松岡裕喜さんに、会社が目指すビジョンを絵に描いてもらった。松岡さんによる経営陣や社員のインタビューを経て、出来上がった作品が「ボーダーレス」だ。

高さ6メートルの画面いっぱいに海と空が描かれていて、その境目ははっきりしない。「上司と部下、ベテランと若手、さらには工場と工場、行政と民間といった壁を乗り越えていけば、会社も町も今よりずっと良くなる」と松岡さんは話す。

松岡さんの「Borderless（ボーダーレス）」（東大阪市の盛光SCMで）

作品は本社・工場入り口に飾ってある。草場寛子社長は「社員それぞれで捉え方は異なるはず。訪れる人から『これは何？』と尋ねられた時、自分の言葉でビジョンを語ってほしい」と期待する。

こうした連携は若手アーティストの支援を手がけるスタートアップ、アイデアブルワークス（京都市）が「アーティスト・イン・ファクトリー」と称して企画した。ほかにも参加を検討

する企業があり、24年度も東大阪の3〜5社で実施する方針だ。

（高橋圭介）

【関連記事】東大阪の町工場、アートの創作拠点に　コラボ商品も期待

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.